

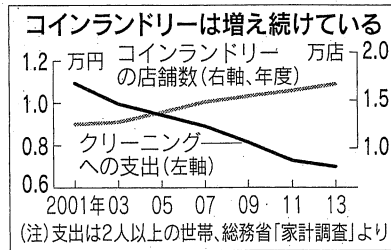
広がる家事代行

▶下

節水や除菌機能など家庭用洗濯機が進化を続けるなか、コインランドリーが増えている。1年間で400店と中堅コンビニエンスストア並みの出店ペースだ。厚生労働省の調査によると2013年度は1万6693店と10年で3割伸びた。需要を支えているのは家族を抱える女性たちだ。首都圏で「マンマチャオ」の名称で134店を営業するエムアイエス（横浜市）の三原淳社長は「顧客の約7割は主婦」と話す。

隠れた時短ニーズ狙う

一方でクリーニングの市場は急速に縮む。家計調査によると支出は10年で3割減った。「洗剤の進化やオフィスのカシユアル化で利用回数が減っ



コインランドリーが出店を拡大（東京都杉並区のマンマチャオ本天沼店）

にとどまらない。

例えば子供の送り迎えもそのひとつ。日本交通の「キッズタクシー」は1時間4650円から。特別な講習を受けた運転手が学校や塾に通う子供に付き添い送迎する。共働き世帯が増えたこと

「クリーニングの大手」という。コインランドリーの平均使用料は1回800円ほど。時間とコストをはかりにかけながら家事をアウトソーシングしている。

総務省の労働力調査によると25～54歳の女性の就業率は13年に70・7%に達した。10年で6・3%上昇しており、育児や介護の負担も重い。アウトソーシングは洗濯など

のダスキンは65歳以上の高齢者を対象に「ホームインステッド」と呼ぶサービスを提供する。掃除や料理といった家事だけでなく、美容室や買い物に付き添ったり、話し相手になったりする。料金は1回2時間で6480円から。子供世代らが担っていたちよっとした世話を補うサービスだ。

総務省の調べでは35～39歳女性が家事に費やす時間は11年時点で1日に2時間53分。10年で40分減った。家事の中で隠れた時短の需要を効率的に担う発想が新たな商機を生んでいる。

松本史が担当した。